# 学力向上を目指して

この度、令和４年度全国学力・学習状況調査（令和４年４月１９日実施　対象：小学６年生、中学３年生）の結果が示されました。これは、学力や学習状況を測る一つの指標ですので、調査結果を真摯に受け止め、課題を共有して、学校や家庭における「子どもの学び」に対する意識を高めなければならないと考えています。

一人一人の子どもの力を最大限に引き出し、学力を身につけさせることが、子どもの自尊感情を高め、将来を切り開く原動力となるという思いに立ち、教育委員会と学校、家庭、地域が、それぞれの立場から連携して子どもたちの学力向上を目指した取組を進めていきます。

## 令和４年度全国学力・学習状況調査の結果

### １　教科に関する調査

（1）結果の概要

【小学校】

| 調査問題 | 平均正答率 | | |
|---|---|---|---|
| | 西海市 | 長崎県 | 全国 |
| 国語 | 63 | 64 | 66 |
| 算数 | 60 | 62 | 63 |
| 理科 | 63 | 62 | 63 |

【中学校】

| 調査問題 | 平均正答率 | | |
|---|---|---|---|
| | 西海市 | 長崎県 | 全国 |
| 国語 | 66 | 68 | 69 |
| 数学 | 44 | 48 | 51 |
| 理科 | 46 | 48 | 49 |

※県、市における平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数表記となっていますので、全国の平均正答率においても、四捨五入した整数表記にしています。

（2）調査結果にみる本市の課題

国語と算数・数学については、次のような傾向と課題が見られました。（〇…よい傾向　●…課題）

◇国語

〇自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く。（小）

〇文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。（中）

●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える。（小）

●表現の技法について、理解する。（中）

◇算数・数学

〇百分率で表された割合を分数で表すことができる。（小）

〇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。（中）

●データを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察できる。（小）

●問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。（中）

【調査結果のまとめと今後に向けて】

全国学力・学習状況調査のみならず、県学力調査や市学力調査においても、国語科の「書くこと」についての正答率がよい傾向を示しています。今後は、国語科以外の教科等においても、書く力をはじめとした表現する力の向上につなげていくことが必要です。

### ２　質問紙調査

（1）児童生徒質問紙（一部抜粋）

＊＊＊・・・全国を３ポイント以上上回る　　＊＊＊・・・全国を３ポイント以上下回る

| | (%) | 令和３年度 | | | | 令和４年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 小学６年生 | | 中学３年生 | | 小学６年生 | | 中学３年生 | |
| | | 本市 | 全国 | 本市 | 全国 | 本市 | 全国 | 本市 | 全国 |
| 1 | 人の役に立つ人間になりたい。 | 93.0 | 95.5 | 96.6 | 95.0 | 94.3 | 95.1 | 96.9 | 95.0 |
| 2 | いじめはどんな理由があってもいけない。 | 93.9 | 96.8 | 98.3 | 95.9 | 98.4 | 96.8 | 97.6 | 96.4 |
| 3 | 自分には、よいところがあると思う。 | 76.6 | 76.9 | 70.7 | 76.2 | 75.4 | 79.3 | 78.4 | 78.5 |
| 4 | 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 | 66.8 | 74.0 | 60.3 | 63.5 | 68.2 | 71.1 | 58.1 | 58.5 |
| 5 | 学校の授業時間以外に、平日１時間以上（中学生は２時間以上）、学習をしている。 | 57.9 | 62.1 | 14.9 | 41.8 | 61.6 | 59.4 | 14.2 | 41.8 |
| 6 | 朝食を毎日食べている。 | 95.3 | 94.9 | 95.9 | 92.8 | 94.3 | 94.4 | 95.6 | 91.9 |
| 7 | 学校の授業時間以外で、平日、１日３０分以上読書をしている。 | 34.2 | 37.4 | 26.4 | 28.9 | 32.3 | 36.4 | 27.7 | 27.3 |
| 8 | 将来の夢や目標を持っている。 | 78.1 | 80.3 | 70.7 | 68.6 | 82.0 | 79.8 | 62.3 | 67.3 |
| 9 | 学校に行くのは楽しい。 | 79.5 | 83.4 | 82.2 | 81.1 | 83.6 | 85.4 | 81.5 | 81.1 |
| 10 | 今住んでいる地域の行事に参加している。 | 82.3 | 58.1 | 66.7 | 43.7 | 72.8 | 52.7 | 62.9 | 40.0 |
| 11 | 地域や社会のために何をすべきかを考えることがある。 | 51.8 | 52.4 | 62.1 | 43.8 | 49.8 | 51.3 | 43.8 | 40.7 |
| 12 | 学習の中でコンピュータなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思う。 | 98.6 | 94.5 | 95.4 | 93.2 | 91.8 | 94.4 | 95.1 | 92.6 |
| 13 | 平日、家庭で１日当たり３０分以上、スマートフォンやコンピュータなどのＩＣＴ機器を勉強のために使っている。 | 43.0 | 41.4 | 30.9 | 42.2 | 42.6 | 43.8 | 41.4 | 40.8 |

（2）調査結果にみる本市の児童生徒の傾向と課題（〇…よい傾向　●…課題）

〇「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合が小・中学校ともに全国平均を上回っており、高い規範意識をもっていることがうかがえる。

〇地域の行事への参加率が小・中学校ともに高い。特に中学生は「地域や社会のために何をすべきかを考えることがある」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。

〇中学校は、「ＩＣＴ機器は勉強の役に立つ」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。生徒がＩＣＴ機器を使った学習に対して前向きな思いをもっていることがうかがえる。

●小学校は、平日に３０分以上読書をする児童の割合が、全国を下回っている。

●中学校は、平日２時間以上家庭学習をする生徒の割合が全国を大きく下回った。また、小学校・中学校ともに自分で計画を立てて家庭学習をしている児童生徒の割合が全国を下回っている。

【調査結果のまとめと今後に向けて】

各学校における授業改善の取組とともに、家庭学習の時間や質を改善（１人１台端末の持ち帰りを含む）していくことが西海市の課題です。児童生徒が自分で計画を立てて学習や読書に取り組むことができるように、学校と家庭が協力して子どもたちをサポートしていくことが必要です。

## 学力向上のために

◇全国学力・学習状況調査の結果から、次のような子どもが、学力が高い傾向にありました。
自分の姿と照らし合わせて５段階で自己評価をさせるとともに、それに対して励ましの声をかけてみるなど、御家庭で活用ください。

【自己評価日：令和４年　　月　　日】

| | 具　体　的　な　姿 | 自己評価 |
|---|---|---|
| 1 | 朝食をとり、決まった時刻に起床・就寝するなど、生活のリズムが整っている。 | |
| 2 | 家庭学習の時間を確保し、家で計画を立てて学習している。 | |
| 3 | 将来の夢や目標をもっている。 | |
| 4 | 自分でやると決めたことは、最後までやり遂げるようにしている。 | |
| 5 | 相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところと違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかり伝えている。 | |
| 6 | 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。 | |
| 7 | 学習した内容について、分かったことやよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。 | |
| 8 | １人１台端末（クロームブック）を活用して、学習をすることができる。 | |

★自己評価
５：よく当てはまる　　４：だいたい当てはまる　　３：ときどき当てはまる
２：あまり当てはまらない　　１：全く当てはまらない

保護者からのコメント

## 学校の取組

◇学校では、全国学力・学習状況調査の結果を受け、次のような授業に努めます。また、学校の課題に応じた学力向上アクションプランを作成し、課題の改善に努めます。

○授業のはじめに学習のめあてを設定し、授業の終わりに「できるようになったこと」と「まだ、できるようになっていないこと」を確認し、まとめる。
○授業内容を振り返ることができるような、子どもに分かりやすく効果的な板書を行う。
○子どもから複数の意見が出るような問いを発し、その共通点と相違点を明らかにしながら、より良い意見となるよう考えさせる。
○「なぜそうなるか？」について考えさせ、子どもに言葉で説明させる場面を設定する。
○「総合的な学習の時間」において児童生徒自身が自分なりの課題を設定でき、課題を解決するために調べ、追究できるような学習の流れにする。
○同じ地区の小学校と中学校が連携し、家庭学習の質や量の充実を図る。
○１人１台端末（クロームブック）を授業や家庭学習で活用する。

## 西海市の取組

◇西海市教育委員会では、平成３０年度から取り組んでいる「西海市 AI(あい)プラン（Academic Improvement Plan）」に加え、令和元年度には「学びの土台づくり推進事業」を立ち上げ、西海市小・中学校校長会と協力しながら、子どもたちの力を伸ばし、自信をつけさせるため、以下のような取組を推進します。

【西海市 AI(あい)プラン（Academic Improvement Plan）】
・「分かる授業」、「魅力ある授業」、「達成感のある授業」づくりの基盤となる教員の授業力を高めるために、学力向上スーパーバイザーを定期的に学校へ派遣し、指導助言等を行う。
・市が費用を負担し、小学校は５、６年生を対象に漢字検定を年間１回、中学校は全ての生徒を対象に英語検定を年間２回実施する（中１は１回）。
・西海市教育委員会が作成した「授業実践の視点 Ver2」や「学力向上のためにすぐに取り組める授業改善対策」を全教職員に示し、それに基づいて具体的な授業を展開するよう指導する。
・中学校区ごとに、教員による「小中連携検討チーム」をつくり、定期的に、中学校区ごとに「小中連携検討会」を開く。共通実践事項の検討等を行うことにより、小・中学校が連携した授業改善や家庭学習の充実が図られるようにする。
【学びの土台づくり推進事業】
・「互いに認め合い、高め合う学びの実現」「書く力をはじめとした表現する力の向上」という、全ての教科の学習に通じる力の育成のための学級づくりや授業改善につながる講演会や授業研究会を実施する。
【その他】
・ＩＣＴ機器やＡＩドリルの効果的な活用法を身につけるための研修会を開催する。
・１人１台端末の積極的な活用の推進に向け、ＩＣＴ教育の環境整備に努める。

西海市教育委員会学校教育課